熊本地震を契機とした心のケア活動への継続的な取組

西原村学校保健会

（西原中学校、山西小学校、河原小学校）

４人

活動年数：６年１１月

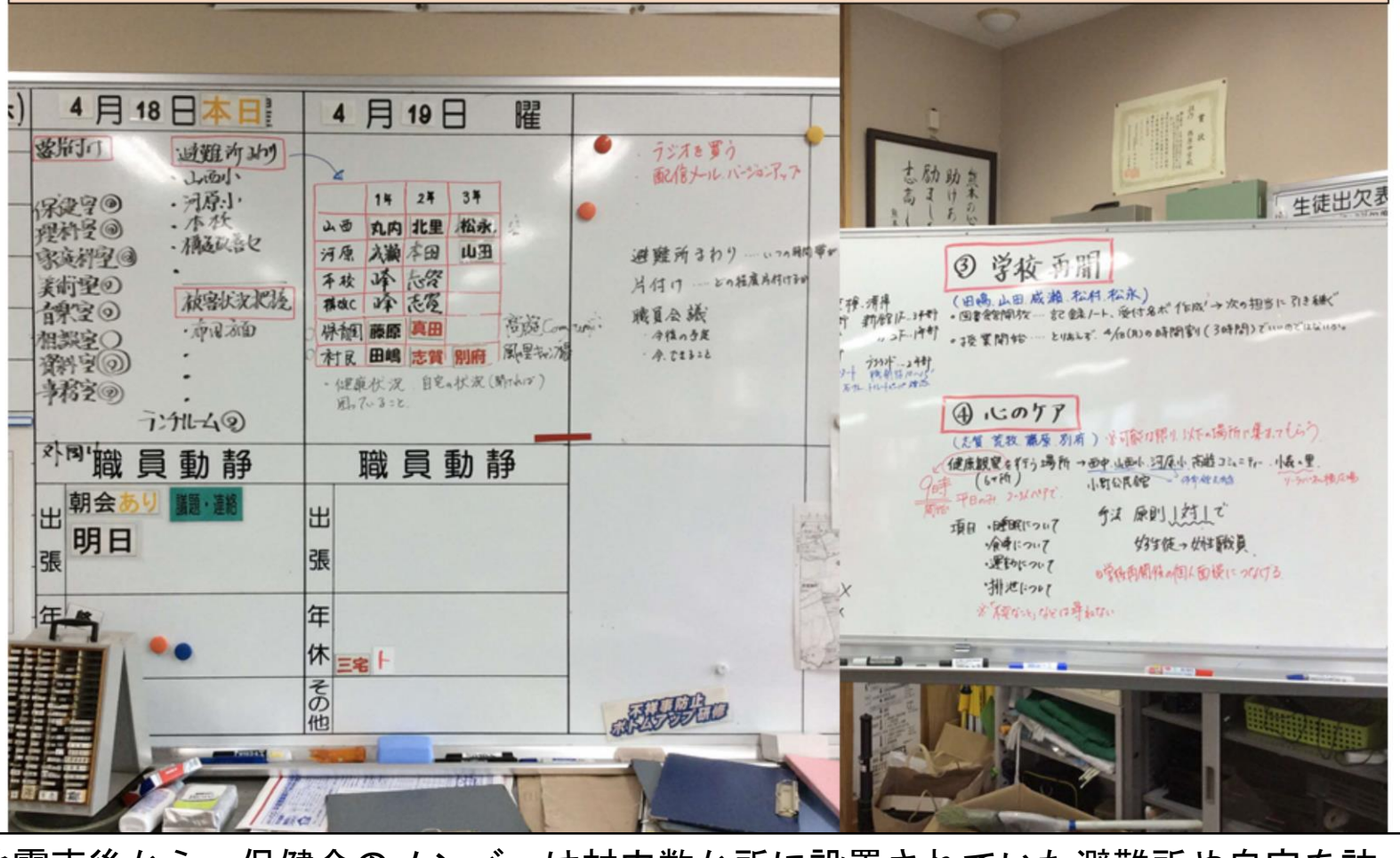
平成２８年４月１６日午前１時２６分　熊本地震発生
西原村は震度７を記録し、甚大な被害を受ける。

通行不能になった通学路や全半壊した家屋

学校の倉庫が全半壊　職員室、教室の物品が散乱

平成２８年４月１６日に発生した熊本地震により、西原村は震度７を記録し、道路や橋梁を始め、学校も甚大な被害を受けました。

発災直後から西原村に設置された各避難所や児童生徒の自宅を職員が訪問し、健康状況の把握や支援活動を行うために奔走した。



地震直後から、保健会のメンバーは村内数か所に設置されていた避難所や自宅を訪ね、一人一人の児童、生徒の健康状態を把握するなどの支援活動を行いました。

発災直後を考慮し、児童生徒の健康観察が的確かつ素早くできるように以下のキーワードで簡素化して実施するようにした。

資料① 全職員が共通理解のもと健康観察ができるように本組織が配付した当時の資料

震災後の対応について

【　丁寧な健康観察　】

朝の会、授業中や休み時間等子ども達の様子を全職員で観察する。
特に朝の健康観察では、次のような視点を持つよう指導する。
※一人ひとりと視線を合わせ、笑顔を送る。

か	「具合の悪いところはないか？」
ご	「食欲はあるか？」
ね	「よく眠れたか？」
こ	「心の元気は？」

心が元気がない
悩みがある、イライラする、なんとなく不安、
なんとなく元気が出ない　等

◎　通常の健康観察カードを使って配布・回収も通常どおり実施することができ、継続的に観察をすることができました。

4

具体的には、からだ、ご飯、眠り、心を表す「かごねこ」のキーワードを考案し、子ども達の心身の健康状況を迅速かつ的確な把握に努めました。

職員も各避難所や自宅を訪問し、児童生徒の健康状況把握に奔走して疲弊していた。そこで、本組織が中心となり職員向けに「心のケア～自らを語ろう～」を実施した。

資料② 臨時休業中に本組織が実施した職員研修

【　職員研修　】

「心のケア～自らを語ろう～」

主な流れ　1　流れの説明、グループ分け

2　（例を聞いてから）「気になること」を個人で付箋に書く

3　グループで「気になること」を出し合う、感想や意見も出す

4　各グループの発表

5　感想等を発表

6　まとめ

◎　ある先生の提案により、震災後学校休校中の職員研修で実施した内容です。片付けや子ども達の安否確認等に追われる中、職員同士の会話も少なくなっていました。思いを出し合い共有することで「心が軽くなった」「繋がりが強くなった」「語り合うことの良さを実感した」等の感想が聞かれました。先生方自身も被災されていて、心のケアが必要であることを感じる時間ともなったと思います。

職員に好評だったので、学校再開の日に同じような内容でクラスごとに「心のケア～みんなで話そう～」という時間を持ちました。子ども達の明るい笑顔が見られ、なかなか話を終えることができませんでした。

5

支援の長期化とともに、教職員にも心的疲労がピークに達していました。そこで本組織が中心となり、「自らを語ろう」の研修を実施し、職員の思いや辛さを共有する心のケアに取り組み、絆を強め、元気を取り戻しました。

学校再開の日に、児童生徒に対しても「心のケア～みんなで話そう～」を実施した。

平成 28 年度　学級活動案「心のケア」（児童編）
～みんなで話そう～

平成 28 年 5 月 11 日（月）

1　題材名　「みんなで話そう」（児童の心のケア活動）

2　題材設定のねらい

「熊本地震」被災に際し、児童は心身の健康に大きな影響を受けている。このような衝撃を受けた場合、ストレス症状が現れることが多い。これは時間の経過と共に薄らぐものであるが、時には長期にわたり日々の暮らしに学業に支障を来す場合もある。

そこで被災 1 ヶ月後の学校再開時にあわせ、とりあえず、みんなで話すことで、クラス内の子ども達の状況を把握すると同時に、お互いの情報を共有しながら共通理解を含め、顔を見合わせながら、心のケアの機会とする。

またこういった活動を行うことにより、今後思いやりのある学級づくりの一つとする。

3　本校の実態

ほとんどが被災した児童で家庭的にも大変な毎日を過ごし、元気そうに見えても心身ともに疲労していると考えられる。その中でも気を張って家族と共に毎日を過ごし頑張っている。

4　活動計画

1 時　「みんなで話そう」（本時）　3 時「みんなで支え合うクラスをつくろう」
2 時　「思いを語ろう」（代表児童）　3 時～（クラスづくり）

「みんなで話そう」で笑顔になる生徒

や体の変化の対処方法には、①誰かに相談
らう④体を動かす⑤音楽を聞くなど発達段
いたりしたときどのように対処したらよい
ようにすることが大切である。
いうコミュニケーションがストレスのケア
災後学校再開時に、まず「話す」「聞く」
スの軽減化を行いたい。

身のことを話したり、友達の思いや考えを
りをつくろうとする。

7　展開（45 分）

時間	活　動	留意点など
3	1 本時の活動の趣旨を知らせる	
	趣旨 「久しぶりの学校でみんな友達に会いたかったと思う。そこで今日は、みんなでゲームをしたりおしゃべりをしたりしよう。」（「熊本地震」に被災し、心身ともに大きな影響を受けているが、無理して震災の話をする必要はない。）	
	活動のだいたいの流れと時間を示す。	・休み中のことを「話す」こと、そして友達の話を「聞く」ことが大切だということを知らせる。
1 2	2 アイスブレーキング （グループ分け） ＊資料参照	ゲームを行い、参加者の心と体をときほぐす。上手にゲームが出来なくても構わない、楽しい雰囲気を大切にする。（3～4 人で 1 グループ） **評価①：活動に積極的に参加したか**
2 5 (3)	3「みんなで話そう」 ①例を示す （教師自身のことを簡単に話す）	「みんなで話そう」板書 休み中の楽しかったことやちょっとドジなエピソード、少しだけ地震の時の様子など簡単に話安心して活動できる雰囲気作りを演出する。
(12)	②「みんなで話そう」 （主活動）	・休み中のことを何でもいいから 1 人 1 回は話したい。しかし、無理はさせない。また、聞き方が上手な児童を積極的に評価する。 **評価②：話し合い活動に参加できたか。**
(5)	③グループで出た話を発表する。（中高学年）	・どんな話が心に残ったかについてでもよい。 高学年では、簡単にみんなの話まとめることができれば大いに評価する。 低学年では、教師がまとめる。
(5)	④各グループの発表を聞き、思ったことや感想等を出し合う。	・無理に「お返し」をする必要はない。
5	4 まとめ（感想記入）	・みんなが生きていたことにまずは感謝する。 そして授業では、一生懸命話をしていた児童の姿や友達の話を頷きながら、相づちをうちながら聞く姿など素晴らしい点をほめる。 これからは、担任ともゆっくり話すことができればいいことや代表児童の思い等の発表をあれば聞い

＊　子ども達の活動の様子や感想等は資料とし

資料③ 授業展開案

学校再開の日、各学校でも児童、生徒たちへの「心のケア～みんなで話そう～」を実施しました。その結果、子どもたちは互いの思いを共有し、絆を深め、笑顔を取り戻していきました。

保護者から見た「子どもの心と体のアンケート」の実施や、スクールカウンセラーによるＰＴＡ総会での心のケアについての講演会の実施

資料④ 保護者へのアンケート

保護者様

西原村立山西小学校
校長　工藤　次生

保護者から見た「子どもの心と体のアンケート」のお願い

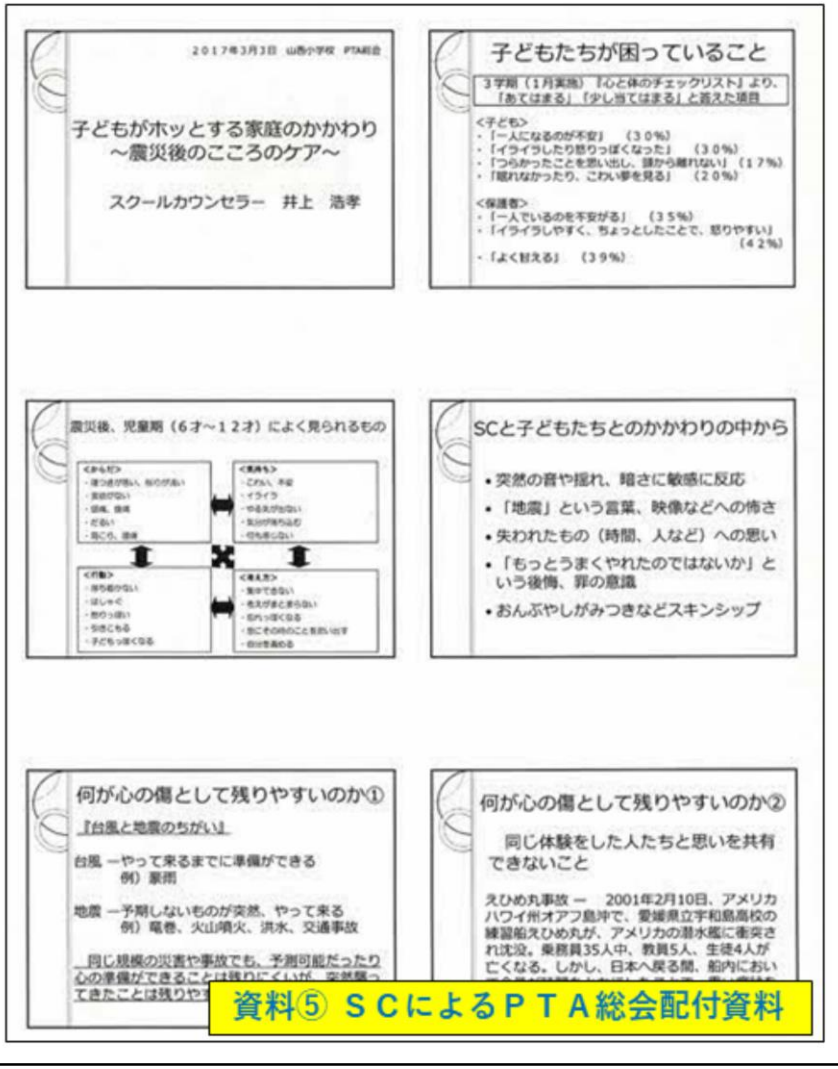
保護者の皆さまには、日頃より本校の教育活動にご協力いただき感謝申し上げます。
さて、本校では、昨年４月に起きた熊本地震以降、子どもたちの心と体の状態について把握するため定期的にアンケートを実施し、実態把握や個別面談等の取組によりそのケアに努めてきました。
今回、地震から１０ヶ月経った現在の子どもの心と体について把握するため、保護者の皆さまへアンケートを実施することとしました。
つきましては、下記のアンケートにご回答いただき、２月１０日（金）まで担任へご提出くださいますようお願いします。

（　　）年（　　）組（　　）番　児童氏名（　　）

	保護者から見た子どもの様子について１つ選び、○をご記入ください。	１ とても あてはまる	２ 少し あてはまる	３ あまり あてはまらない	４まったく あてはまらない
1	眠れなかったり、こわい夢をみたりしているようだ。				
2	一人でいるのを不安がる。				
3	よく甘える。				
4	イライラしやすく、ちょっとしたことで怒りやすい。				
5	涙もろくなったり、落ちこんだりしている。				
6	笑顔がなく、ぼんやりしている、生き生きした表情が乏しい。				
7	以前は一人でできていたことができなくなった。				
8	地震に関すること（ニュースや防災訓練など）で過敏な反応や身体の不調が出る。				
9	つらかったことを思い出させる場所や人に近づかない。				
10	つらかったことに関係する話をしたり、聞いたりすることを嫌がる。				

☆その他、子どもの様子について気づき等があれば、ご記入ください。

※スクールカウンセラーとの面談を希望しますか？（はい・いいえ）



資料⑤ ＳＣによるＰＴＡ総会配付資料

また、「保護者から見た子供の心と体のアンケート」の実施や、カウンセラーによる保護者向け講話なども開催し、保護者への助言や個別のカウンセリング等の充実を図りました。

西原村学校保健委員会だより

令和5年9月
発行 NO.1

くまもと 早ね・早おき いきいきウィーク

～こころとからだの健康づくり～

西原村学校保健委員会では、熊本県により行われた子もたちの基本的な生活習慣を育成するための取組、『くまもと 早ね・早おき いきいきウィーク（実施期間：8/28～9/15）』を皆さんと一緒に取り組んでいければと思います。詳細につきましては下記内容となっていますので、是非チェックしてみてください!!

また、正しい睡眠とは?デジタル機器を活用することで子育てに影響することは?などの疑問に対して、分かりやすい解説動画がございますので、下記 QR コードからご覧になってみてください。

朝起きたらカーテンをあけよう!

朝の光をあびると心も体も元気になるよ。くもりや雨の日でも効果があるよ。

参考：「早寝早起き朝ごはん」全国協議会 ©2010 熊本県 くまモン

朝ごはんで3つのスイッチ ON!

①脳の目覚ましスイッチ ON !
②体の目覚ましスイッチ ON !
③体の調子を整えるスイッチ ON !

参考：【社】全国学校栄養士協議会 ©2010 熊本県 くまモン

家族や友だちと、おしゃべりしよう!

コミュニケーションをとることで、心も安定し、ぐっすり眠ることができるよ。

参考：「早寝早起き朝ごはん」全国協議会 ©2010 熊本県 くまモン

スマホとの距離を考えてみよう!

□起きてまずすることはスマホチェック
□出かけるときはモバイルバッテリーを必ず持っていく
□好きなものより映えるものを買いがち
□お風呂に入るときやトイレに行くときもスマホを持っていく
□スマホを見ながら眠ってしまうことがある
□実際は何も起こってないのに、スマホが光った(音が鳴った)気がすることがある
□スマホが身近にないととても不安になる

「はい」が多いほど使いすぎの可能性があります

©2010 熊本県 くまモン

※社会教育課「親の学び」次世代編オンデマンド講座ワークシートより

見てみませんか? ～社会教育課 親の学びオンデマンド講座～

正しく理解、睡眠のあれこれ（睡眠編）

正しいデジタル機器とのつきあい方（デジタル機器編）

考えよう! スマホとの距離（スマホ編）

朝ごはんを食べよう!（朝ごはん編） New

令和5年度（2023年度）くまもと 早ね・早おき いきいきウィークで検索 主催：熊本県・熊本県教育委員会 主管：熊本県幼児教育センター

＊ご覧になった方は、裏にQRコードをつけていますので、簡単なアンケートに回答してください。

西原村学校保健会は、熊本地震をきっかけとして現在も心のケアに重点を置きながら、心身の健全育成を目指し、基本的生活習慣、食育等についても、保・小・中連携して、園児、児童、生徒への指導、保護者への啓発活動に現在も取り組んでいる。

資料⑥ 「くまもと 早ね・早おき いきいきウィーク」の取組について、今年度、本組織が作成した保護者啓発文書

現在も熊本地震の経験を活かし、心のケアに重点をおきながら、基本的な生活習慣等について啓発等に取り組んでいます。

ＩＣＴの効果的活用による学力向上

氷川町立竜北西部小学校教職員一同

２４人

活動年数：５年

「教育DX」時代の学校マネジメント
～「西部小版DX」でつながる子ども、先生、家庭、地域～

本校実践のキーワード「西部小版DX」とは

… 学校総体となったICT活用を通して、校務改善や授業改善のための意識改革と行動化を推進するもの

1 「クラウド・バイ・デフォルト」の取組であることを共通理解する

○「いつでも どこでも だれとでも」情報を共有し、活用する環境づくりや実践を積極的に行う。

クラウドを使うアプリの導入

2 ＩＣＴを使った授業を確実に毎日実践する

○「ICTを授業で使う」ことを日常化する。授業実践を通して、「児童の情報活用能力の育成」への取組を具体化していく。

3 職員の「協力」と「自立」を重視する

○「ICTの知識や技能」に個人差があるのは当然。「できない」ことは誰かに聞く（「協力」）、そしてできることからチャレンジ（「自立」）。

「協力」と「自立」で力をつける

西部小版DXとは、ICT活用を通して、校務改善や授業改善を推進するものです。クラウドを活用する新しい取組であることを全職員が理解し、互いの協力と自立を重視して取組を進めてきました。

実践①　校務でのICT活用による活用の基盤づくり

○校務でのＩＣＴの積極的活用の推進

- クラウドを使うコミュニケーション<u>アプリ等の積極的導入</u>
- 各種情報・文書をデジタル共有し、<u>ペーパーレス化</u>
- 共同作業、集計作業の自動化による<u>業務の効率化</u>
- 連絡ツールによる<u>情報の共通理解の効率化・深化</u>

校務の中でICTを使う必然を具体的に体験

○ＩＣＴ活用による校内研修での協議の「効率化」と「深化」

- 参観授業のデータの収集や共有
- チャットやデジタルホワイトボードデジタルノートを使用した協議

校務での活用をそのまま授業での活用へ

まず校務への積極的なICTの導入を行いました。ペーパーレス化やデータ共有による校務のデジタル化、ICTを活用した校内研修での協議等、職員が日常的にICTを使うことで慣れ親しみ、授業での活用に繋がるようにしました。

実践②　研修による活用への共通理解とスキルアップ

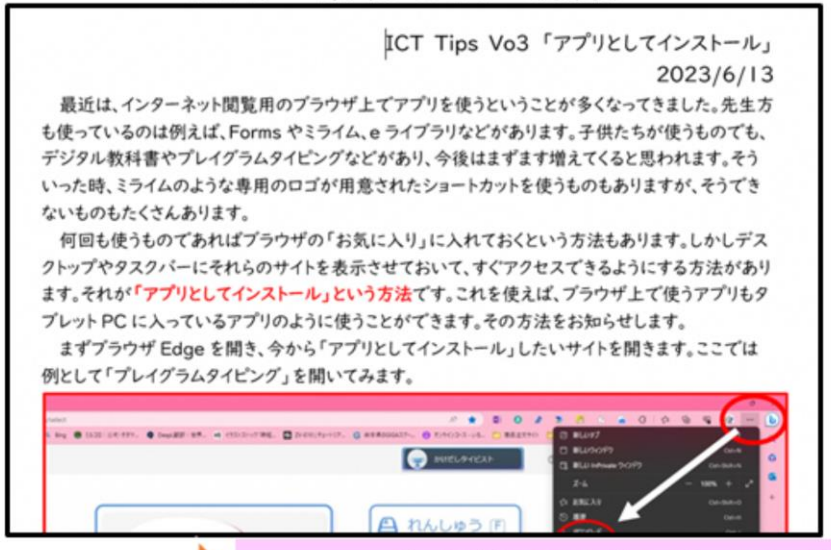
「協力」と「自立」を促す学ぶ機会（場）を設定

○「ＩＣＴ放課後研修会」の定期的な実施

・ＩＣＴ機器やアプリの使い方や授業での効果的な活用方法への理解

○「ＩＣＴ　Ｔｉｐｓ」の発行

・ＩＣＴ活用の情報を紙上提案



ICT Tips Vo3「アプリとしてインストール」
2023/6/13

最近は、インターネット閲覧用のブラウザ上でアプリを使うということが多くなってきました。先生方も使っているのは例えば、Forms やミライム、e ライブラリなどがあります。子供たちが使うものでも、デジタル教科書やプレイグラムタイピングなどがあり、今後はますます増えてくると思われます。そういった時、ミライムのような専用のロゴが用意されたショートカットを使うものもありますが、そうできないものもたくさんあります。

何回も使うものであればブラウザの「お気に入り」に入れておくという方法もあります。しかしデスクトップやタスクバーにそれらのサイトを表示させておいて、すぐアクセスできるようにする方法があります。それが「アプリとしてインストール」という方法です。これを使えば、ブラウザ上で使うアプリもタブレット PC に入っているアプリのように使うことができます。その方法をお知らせします。

まずブラウザ Edge を開き、今から「アプリとしてインストール」したいサイトを開きます。ここでは例として「プレイグラムタイピング」を開いてみます。

○長期休業中の職員同士の教え合いの機会（場）の設定

実践を支える教師のスキルアップ

職員のICT活用のスキルアップに向け、定期的に放課後研修会や新しい情報の共有などを行い、クラウド活用法や機器の使い方などについて学び合いました。

実践③　主体的な学びを育て、学力向上を図る授業改善のためのＩＣＴの積極的活用

○「ひ・か・わ型」学習と授業支援アプリを積極的に活用した授業改善

必要な情報の収集と整理

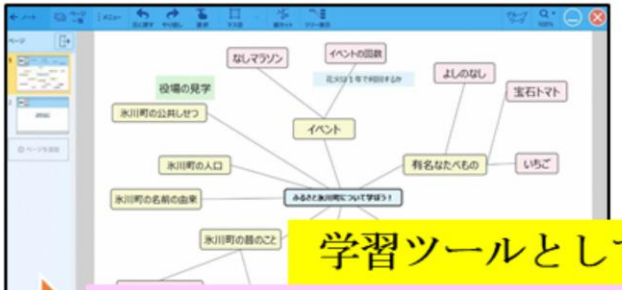
自分と他者の意見の比較

視覚的で、効果的な発表

自分の考えをわかりやすくまとめる

互いの取組や作品を評価しあう

○クラウドを活用し、データを共有する協働学習



○デジタルドリルを使用した学習内容の確認と定着

学習ツールとしてＩＣＴ活用の日常化

新しい学びのスタイルへの実践の積み重ね

次に、ICTを活用し、授業改善に取り組みました。アプリを活用した情報収集や意見交換、視覚的な表現活動、クラウドを活用した協働学習、学習内容の定着を図るデジタルドリルの活用等、個別な学びと協働的な学びの一体的な推進による新しい学びの実現をめざしています。

実践④　オンライン活用や特別活動、家庭学習

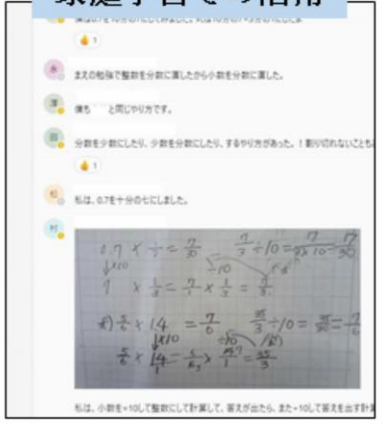
- コロナ禍でのオンライン授業の経験を生かした**ハイブリッド型授業**の実施
- 各集会や校内放送の**オンラインの手法を生かした日常的実施**
- **クラウドを活用した**職員や児童の作成ビデオの**共有**
- 閲覧や委員会活動での**文書・プレゼン作成**、表計算ソフト等の使用による諸活動の**集計や提案、広報**などの活動を日常化
- **家庭学習における**、**デジタルドリルの活用**、**クラウドを活用**した自主学習や協働学習等、新しい学びの在り方の試行。

ハイブリッド型授業

オンライン集会・放送

委員会での活用

家庭学習での活用



ICT活用を全ての教育活動に広げる

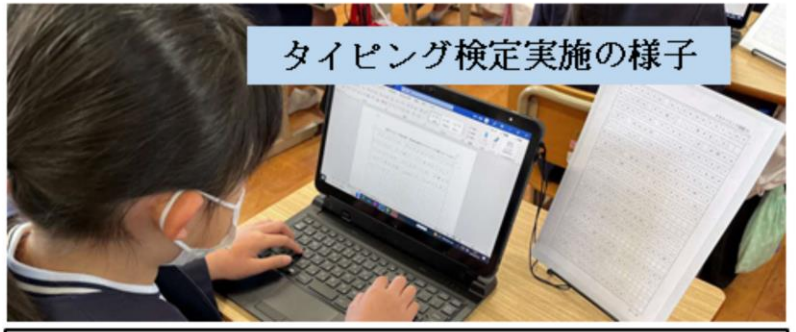
さらにコロナ禍でのハイブリッド型の授業実践の経験を生かし、オンラインを活用した集会の実施や情報発信・共有にも取り組んでいます。教科の授業以外にも、特別活動や家庭学習等、すべての教育活動においてICTを活用した取組を行っています。

実践⑤　児童のICT活用スキル向上の取組

○「ICT活用スキル指導計画」に基づく系統的な技能指導

ICT活用スキルの年間計画

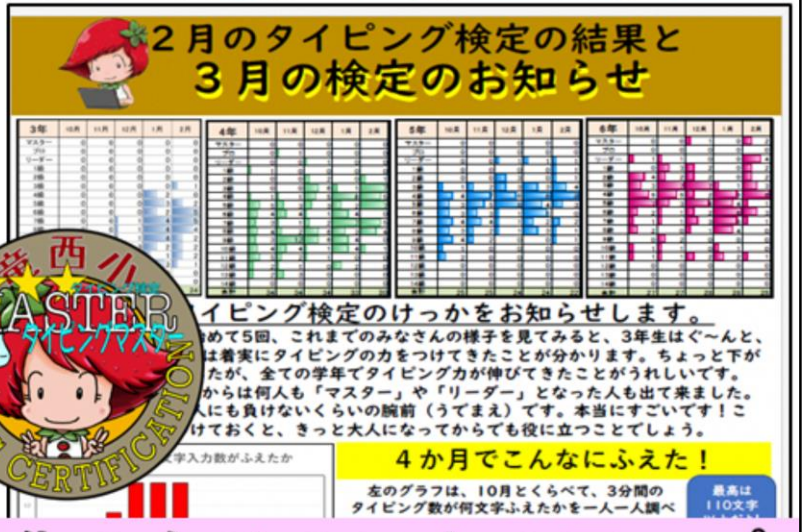
○情報活用能力の基盤強化となる「西部小版タイピング検定」



タイピング検定実施の様子

○学校独自の「キーボードショートカット」活用表の作成

ショートカット下敷きの配布・活用

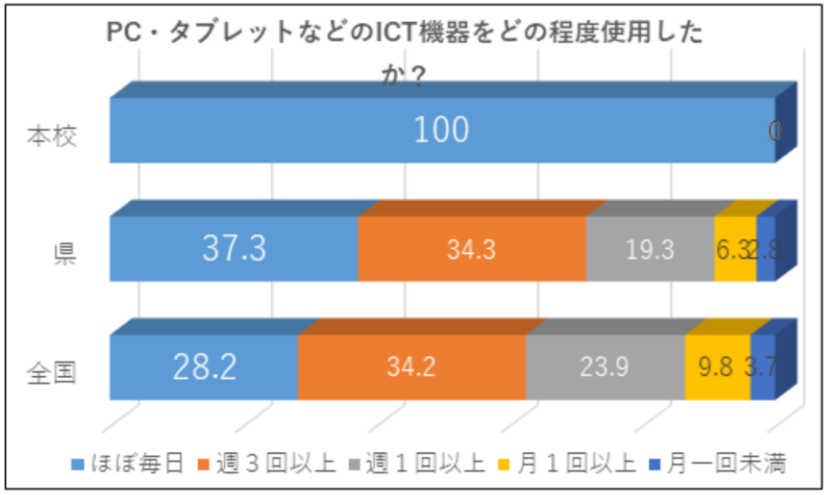


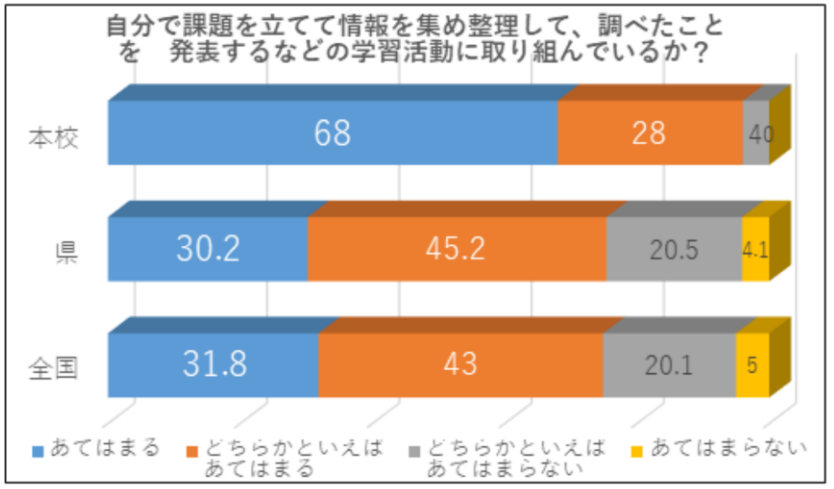
情報活用能力の基盤強化のためのスキルアップ

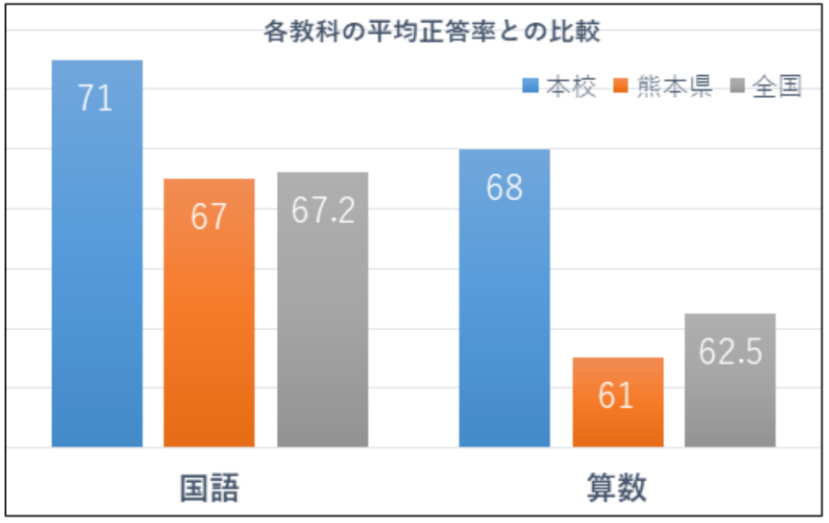
ICT活用スキルの向上を図るため、タイピング検定等の取組を進めています。

「西部小版ＤＸ」でつながる子ども、先生、家庭、地域

1　ICTを活用した授業実践と児童への効果（R5全国学力学習状況調査結果から）







2　職員の意識改革と行動化

「小さな学びや実践を大切にする」

○日々の校務や授業で、「ICTでできることはないか」を考える。そして実際にやってみる。

○Tips（紙上研修）や研修の内容は、自分でやってみて、確実に身につける。（「自立」）

○「できない」「苦手」を先に言って、歩みを止めることをしない。（「協力」）

＜Ｒ４＞ 学校ホームページ　８３９回更新

＜Ｒ５＞　学校ホームページ　４４８回更新　※9/12現在

これら西部小版DXの取組により、学力の確実な向上に加え、子ども、先生、そして家庭・地域を繋ぐ大きな役割を果たしています。

地域の特色を生かした教育課程の編成と地域・関係機関等との連携・協働

五木村立五木中学校教職員一同

１３人

活動年数：５年

＜課題克服に迫るために＞

【課題】

中学校卒業後の進路先で苦労する生徒が多い
（不登校・中途退学・人間関係での悩みなど）

【課題の克服に迫るために】

方針
- **中学校卒業後に向け、たくましく生き抜く力の育成**

そのために
- **身に付けるべき『資質・能力』の明確化**
  （主体性・多様性・表現力・想像力）

課題克服に迫る方法
- **『３つの柱（取組）』の実施**

2

卒業後の進路先で苦労する生徒が多いという課題があることから、「たくましく生き抜く力の育成」という方針を掲げ、３つの取組を進めています。

＜教育の３つの柱 ①主権者教育＞

主体性・表現力・想像力の育成

租税教育を中核においた主権者教育

・行政（税務署・五木村等）及び関係団体（税理士会・法人会等）と連携し、生徒が持続可能な村づくりに参画

・租税に関する学習プログラムの作成

第1回「租税とは何か、意義と役割を学ぶ」税務署・税理士会・法人会
第2回「五木村の税の使われ方を学ぶ」五木村住民税務課
第3回「五木村に税をどのように生かすかを学ぶ」五木村長

【村長講話・中学生議会の様子】

租税教育から主権者教育へ

・五木村及び五木村議会と連携した中学生の思いや意見、考えを村政に反映させる場の設定

➡令和４年度五木村中学生議会発足

3

１つ目は、主権者教育です。令和元年度に租税教育実践校の研究指定を受け、租税教育を中核においた主権者教育に取り組んでいます。生徒は、関係団体と連携し、主体的に村の行事等に参画することで、表現力や地域の未来を考える想像力の育成が図られました。

＜教育の３つの柱 ②ＮＩＥ教育＞

主体性・多様性の育成

地域や社会の中で課題を見つけ、解決のために行動する力を育む

・各教科・領域等において新聞記事を活用

・新聞記事を基に自らの思いや考えをまとめ、他者の考えや意見を聞く場の設定

【熊本日日新聞社と連携したＮＩＥ講座・生徒新聞の作成の様子】

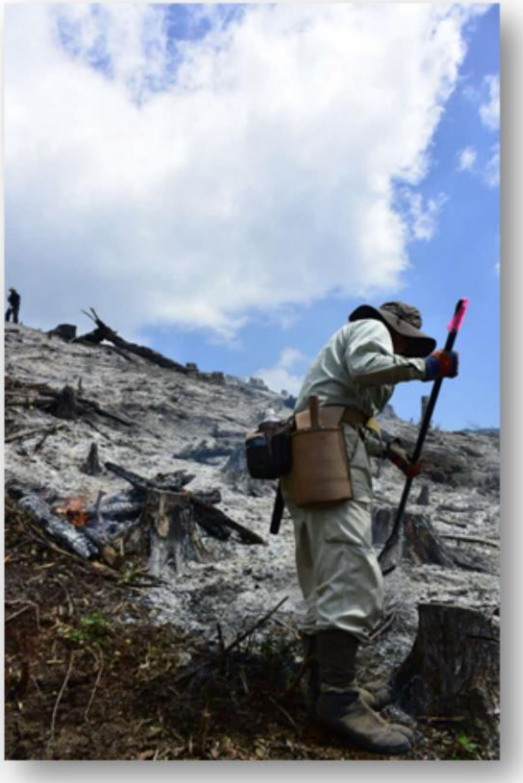
２つ目は、ＮＩＥ講座や生徒新聞の作成などを通して、生徒が、地域や社会の中で課題を見つけ、解決のために主体的に行動する力や、他者の考えや意見を聞くことで多様な価値観を認めることを目指しました。

＜教育の３つの柱 ③焼畑体験学習＞

主体性・多様性の育成

ふるさと感の醸成 ～ふるさとの歴史や伝統文化に触れる～

・五木村の伝統的な農法である**焼畑**を実際に体験



【地域の方々と実際に焼き畑を体験している様子】

３つ目は、村の伝統的な農法である焼畑を体験することにより、村の歴史や伝統文化に触れる機会とするとともに、自然や歴史の多様性を感じることで、多面的・多角的な見方・考え方ができるようになることを目指しました。

＜成果＞

・地域の方々との交流を通して地域の一員としての自覚をもつことで、主体的に村の行事等に参画する意識とともに、表現力・コミュニケーション力が高まっている。

・五木村の持続可能な村づくりについて考えることを通して、想像力が高まっている。

・NIE教育や焼畑体験学習で主体的に活動することを通して、多様性を感じ、多面的・多角的な見方・考え方ができるようになっている。

この３つの取組を行うことで、今、生徒には、主体性や表現力、多様性や想像力が高まったと考えられます。

へき地・小規模校の特色を最大限に生かす取組

◆豊かな人間性を育む「チーム五木！」

五木中学校卒業後に向け、『たくましく、生き抜く力』を身に付ける

今後も、へき地・小規模校の特色を生かしながら、たくましく生き抜く力を身に付けた生徒の育成に引き続き取り組んで参ります。

能動的に学び続ける力の継続的な育成

天草市立本渡南小学校教職員一同

３８人

活動年数：８年

天草市立本渡南小学校の取組

学校教育目標　夢や目標に向かって自ら動く南っ子の育成

研究主題
『能動的に学び続ける力』を身に付けるための実践的研究
～ICT活用のねらいを明確にした授業改善サイクルを通して～

視点１　ICT活用のねらいを明確にした授業改善サイクルの確立
視点２　授業改善サイクルを支える全校的な取組

研究推進委員会

ICTスキルアップ部会　授業改善部会　実践の評価・分析部会

学級力向上、ICTスキルアップ

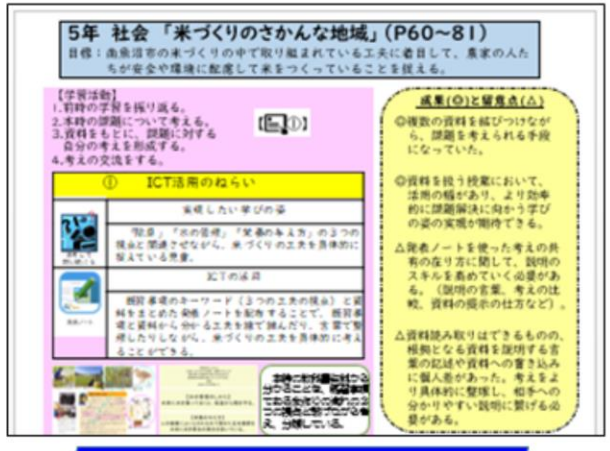
2

これまで県教育委員会や天草市教育委員会の研究指定校として、学力向上に取り組んできました。ここでは、令和４年度の取組についてご説明します。学校の教育目標である「夢や目標に向かって自ら動こうとする児童を育成」するため、２つの視点を設定し、３つの部会で取組を進めました。

視点１　ＩＣＴ活用のねらいを明確にした授業改善サイクルの確立

授業改善部会

※授業改善について中心的に協議を行う。
・児童の実態や「熊本の学び」の授業ポイントに沿った授業構想やＩＣＴ活用のねらいを協議する。
・授業におけるＩＣＴ活用の日常化を図るための実践事例集を作成する。
・「実践の評価・分析」部会の児童の実態調査や実践の課題分析をもとに、ＩＣＴ活用の実践についてＰＤＣＡサイクルで改善し、共通理解を図る。



ＩＣＴ活用実践事例集

部会の話し合いの様子

授業の様子

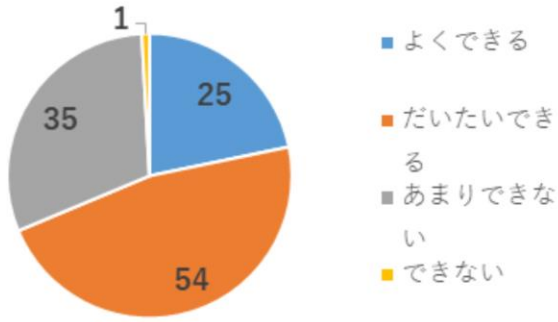
まず視点１についてです。授業改善部会では、実態調査や実践の課題分析をもとに、ＰＤＣＡサイクルで改善し、共通理解・共通実践につなげます。

視点１　ＩＣＴ活用のねらいを明確にした授業改善サイクルの確立

実践の評価・分析部会

学びの実態把握

目的に合わせて、色々な方法（図・写真を使う、ポスター、プレゼンテーションなど）を用いて説明することができますか。



令和４年１０月１２日　５，６年の結果

実現したい学びの姿の共有

第５時　養殖業の特色や人々の工夫・努力

養殖業がどのように行われているのかをまとめるときに、資料に線を引いて発表のときに分かりやすくなるようにできた。今日はまとめるのに時間がかからなかったから、次はインターネットで調べたことも入れてまとめて、分かりやすく説明したい。

4

実践の評価・分析部会では、普段の授業で特に「実現したい学びの姿」を児童と共有すること、ICT活用のねらいを明確にすることに取り組んでいます。

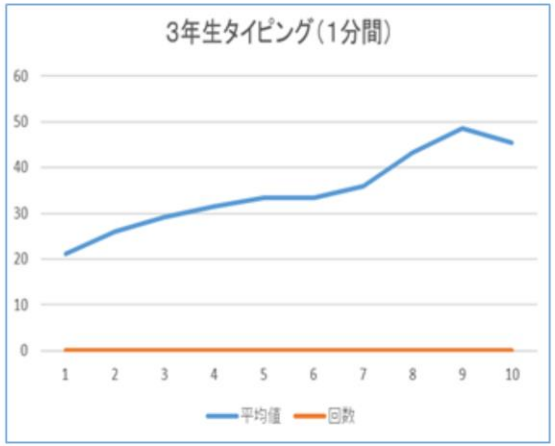
視点１　ＩＣＴ活用のねらいを明確にした授業改善サイクルの確立

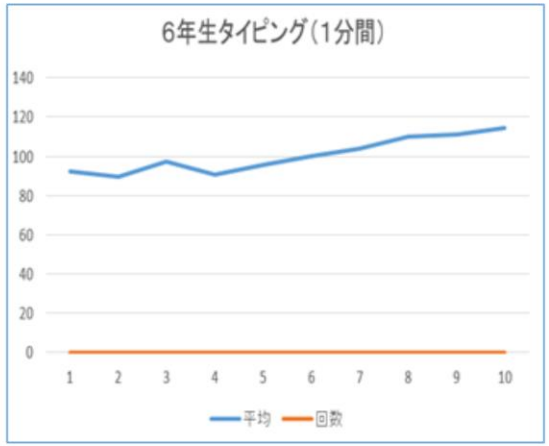
ICTスキルアップ部会

○ＩＣＴスキルアップ部会

※児童・教師のＩＣＴ活用の技能向上について中心的に協議を行う。

・ＩＣＴ活用のルール整備や技能向上に向けた取組について協議・提案を行う。
・児童のＩＣＴ活用技能に関する到達目標を協議・整理し、共通理解を図る。
・朝自習の計画・提案をする。
・タブレット使用のルール整備を行う。
・職員間の情報共有や連絡等のＩＣＴ活用の整理を行う。





【タイピング能力】

６年生の速い児童…
１分間に２３０文字
６年生の平均……
１分間に１１０文字

※６年生の全校平均値1分間で約６０文字

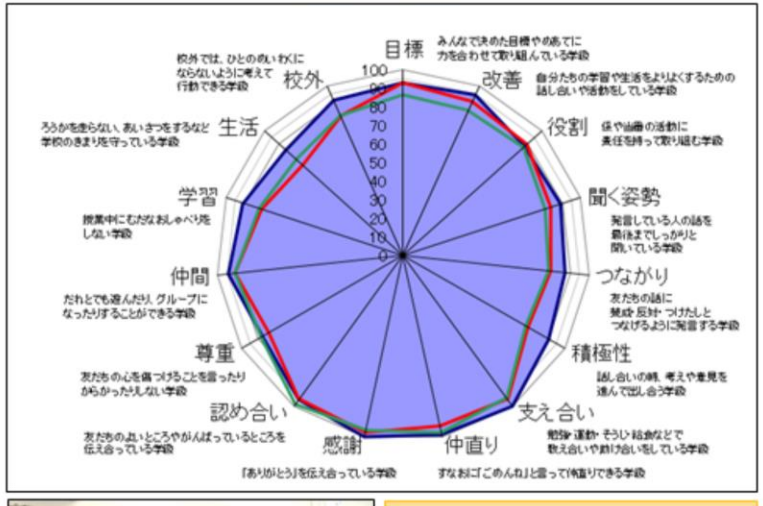
※毎週月曜日１０分間のタイピングタイム

5

ICTスキルアップ部会では、児童の技能向上を目的に「タイピングタイム」を設け、児童が自らの成長を実感できるように取り組んでいます。

視点２　授業改善サイクルを支える全校的な取組

学級力向上プロジェクト



【取組の成果】
○互いに高め合う学級風土を醸成できること
○自分の学級のよさを意識した発言や行動が多く見られるようになってきたこと

かしわばの学び
（自主研修による教員の学び）

【取組の成果】
・学級経営や学習指導に関する課題を共有できること
・児童・生徒指導事案に対する解決方法をより良く見いだせること
・模擬授業により指導技術が向上すること
・仕事を進めるうえでの悩みを解消できること

6

視点２についてです。全校的な取組として、「学級力向上プロジェクト」の時間を設定しました。課題について話し合う場を設定することで、児童一人一人が解決しようとする態度を育成しています。また、教員の自主研修では、「自らの資質や能力を高めたい」と意欲的に取り組む姿勢が見られます。

研究の成果１

令和４年度 天草市教育委員会指定「学力充実研究推進校」研究発表会での参加者の感想

〇子ども達のスキルの高さに驚きました。学習ツールとして活用するためには、日頃から使い慣れておくことの大切さを実感しました。

〇ＩＣＴの長所が出せていたと思います。全員の意見を提示できる、友達の考えを参考にできる、教師が学びを見取れる等、参考になりました。

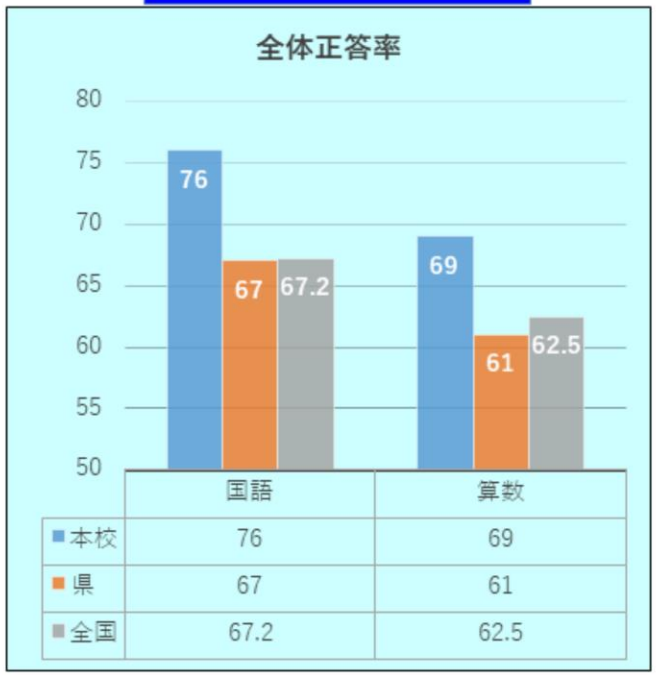
〇朝の合唱の姿を見て、この集団ならばどんな授業もうまくいくと感じました。授業もよく練られており、何より子供たちの学びの姿に感心しました。

〇学習活動のねらいを達成するためのＩＣＴ活用が見られた。児童のタブレット操作の上手さからこれまでの実践の積み重ねを感じた。

昨年度、天草市教育委員会から「学力充実研究推進校」の指定を受け、１１月に研究発表会を行いました。その際、ご覧のような高い評価をいただきました。

研究の成果２

○　学力面の結果



	国語	算数
本校	76	69
県	67	61
全国	67.2	62.5

令和５年度全国学力・学習状況調査

○　質問紙調査から見える成果と課題

【成果】
○友達関係を含め、学校生活は概ね良好。
○自己肯定感は高い。
○ＩＣＴ活用の意識は非常に高い。
○授業における個人解決、協働、まとめに積極的に取り組んでいる。
○学級全体の課題解決の意識が高い。

【課題】
●学習には意欲的であるが、学んだことを生かせるという実感はできていない。
●学校が休みの日の家庭学習が全国平均を７ポイント程下回っている。
●読書に対する意識はやや低い。

【今後の対策】
★個別最適な学びの実現に向けた研究の継続
★教科学習の必要性を感じることができるような授業、その他のアプローチ
★家庭学習の状況チェックと改善
★相談体制の見直しと日常的な相談受入の工夫

また、本年度の全国学力・学習状況調査でも、取組を進めてきた８年間の積み重ねなどにより、良好な成績を収めることができたと考えています。

生徒と取り組む情報モラル教育

熊本県立東稜高等学校研究企画
兼情報管理部　　６人

活動年数：６年

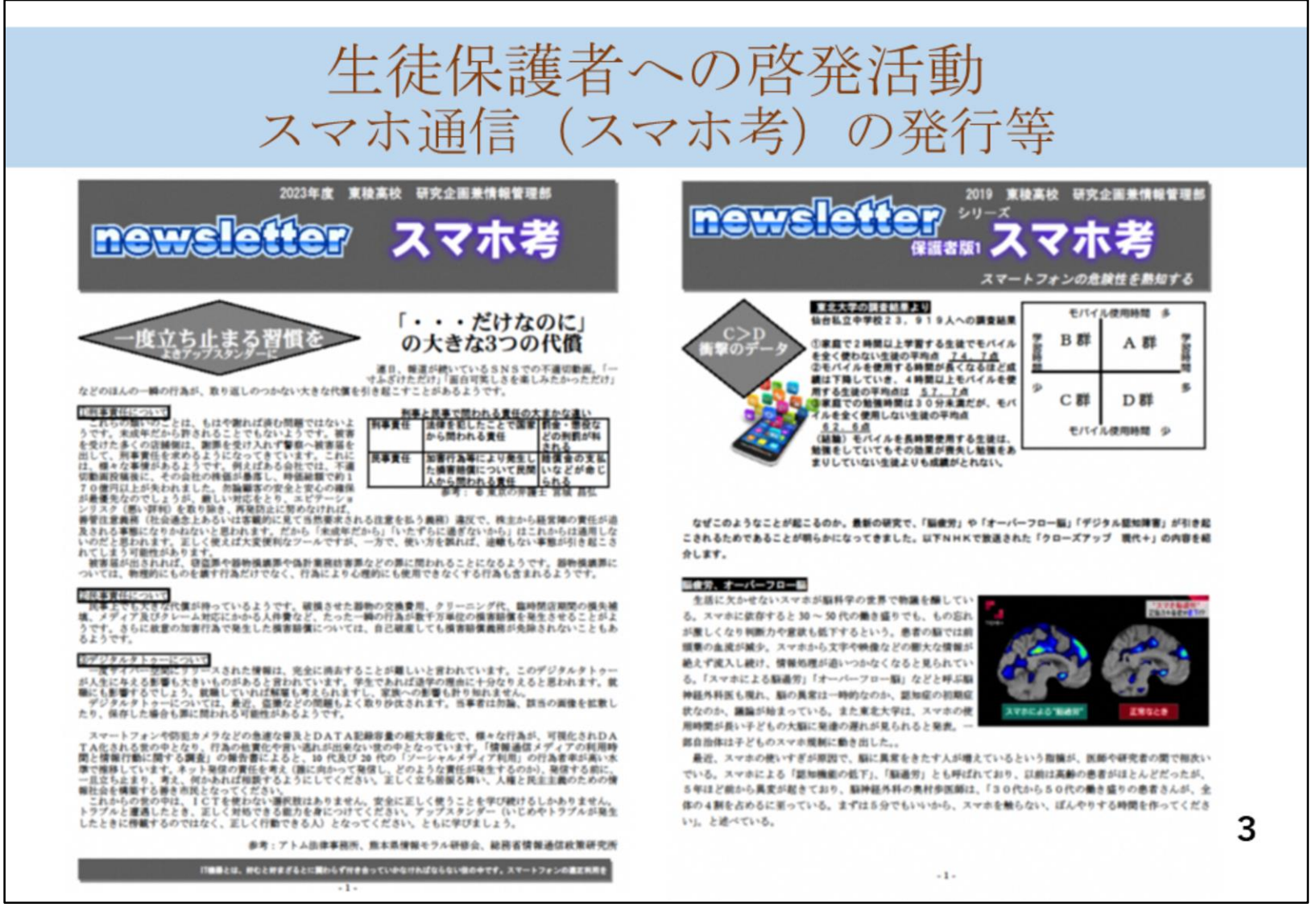
スマホダイエット（情報モラル教育）

スマホの適切な利用について、生徒が多角的な観点から考える

2

情報モラル教育の一環として、「スマホダイエット」という取組を行っています。定期考査の前に、生徒会の風紀委員を中心に、保健委員や図書委員が放送や資料提示などを通して、スマホの適正利用について呼びかけるもので、取組の直後にアンケート調査を実施し、その後の取組に生かしています。

生徒保護者への啓発活動
スマホ通信（スマホ考）の発行等



2023年度　東稜高校　研究企画兼情報管理部

newsletter　スマホ考

一度立ち止まる習慣を
よきアップスタンダードに

「・・・だけなのに」の大きな3つの代償

連日、報道が続いているＳＮＳでの不適切動画。「一寸ふざけただけ」「面白可笑しさを楽しみたかっただけ」などのほんの一瞬の行為が、取り返しのつかない大きな代償を引き起こすことがあるようです。

刑事と民事で問われる責任の大まかな違い

刑事責任	法律を犯したことで国家から問われる責任	罰金・懲役などの刑罰が科される
民事責任	加害行為等により発生した損害賠償について民間人から問われる責任	賠償金の支払いなどが命じられる

参考：令東京の弁護士 吉田 昌弘

刑事責任について

これらの動画のことは、もはや謝れば済む問題ではないようです。未成年だから許されることでもないようです。被害を受けた多くの店舗側は、謝罪を受け入れず警察へ被害届を出して、刑事責任を求めるようになってきています。これには、様々な事情があるようです。例えばある会社では、不適切動画投稿後に、その会社の株価が暴落し、時価総額で約１７０億円以上が失われました。加盟顧客の安全と安心の確保が最優先なのでしょうが、厳しい対応をとり、エビデーションリスク（悪い評判）を取り除き、再発防止に努めなければ、

善管注意義務（社会通念上あるいは客観的に見て当然要求される注意を払う義務）違反で、株主から経営陣の責任が追及される事態になりかねないと思われます。だから「未成年だから」「いたずらに過ぎないから」はこれからは通用しないのだと思われます。正しく使えば大変便利なツールですが、一方で、使い方を誤れば、途轍もない事態が引き起こされてしまう可能性があります。

被害届が出されれば、器物損壊罪や偽計業務妨害罪などの罪に問われることになるようです。器物損壊罪については、物理的にものを壊す行為だけでなく、行為により心理的にも使用できなくする行為も含まれるようです。

民事責任について

民事上でも大きな代償が待っているようです。破損させた器物の交換費用、クリーニング代、臨時閉店期間の損失補填、メディア及びクレーム対応にかかる人件費など、たった一瞬の行為が数千万単位の損害賠償を発生させることがようです。さらに故意の加害行為で発生した損害賠償については、自己破産しても損害賠償義務が免除されないこともあるようです。

デジタルタトゥーについて

一度サイバー空間にアップされた情報は、完全に消去することが難しいと言われています。このデジタルタトゥーが人生に与える影響も大きいものがあると言われています。学生であれば進学の理由に十分なりえると思われます。就職にも影響するでしょう。就職していれば解雇も考えられますし、家族への影響も計り知れません。

デジタルタトゥーについては、最近、盗撮などの問題もよく取り沙汰されます。当事者は加論、該当の画像を拡散したり、保存した場合も罪に問われる可能性があるようです。

スマートフォンや防犯カメラなどの急速な普及とＤＡＴＡ記録容量の超大容量化で、様々な行為が、可視化されＤＡＴＡ化される世の中となり、行為の他責化や言い逃れが出来ない世の中となっています。「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」の報告書によると、10 代及び 20 代の「ソーシャルメディア利用」の行為者率が高い水準で推移しています。ネット発信の責任を考え（踏に向かって発信し、どのような責任が発生するのか）、発信する前に、一旦立ち止まり、考え、何かあれば相談するようにしてください。正しく立ち居振る舞い、人権と民主主義のための情報社会を構築する善き市民となってください。

これからの世の中は、ＩＣＴを使わない選択肢はありません。安全に正しく使うことを学び続けるしかありません。トラブルと遭遇したとき、正しく対処できる能力を身につけてください。アップスタンダード（いじめやトラブルが発生したときに停観するのではなく、正しく行動できる人）となってください。ともに学びましょう。

参考：アトム法律事務所、熊本県情報モラル研修会、総務省情報通信政策研究所

IT機器とは、対心と対まずるとに関わらず付き合っていかなければならない世の中です。スマートフォンの適正利用を

- 1 -

2019　東稜高校　研究企画兼情報管理部

newsletter シリーズ 保護者版1 スマホ考

スマートフォンの危険性を熟知する

C>D 衝撃のデータ

東北大学の調査結果より

仙台私立中学校２３，９１９人への調査結果

①家庭で２時間以上学習する生徒でモバイルを全く使わない生徒の平均点　７４．７点

②モバイルを使用する時間が長くなるほど成績は下降していき，４時間以上モバイルを使用する生徒の平均点は　５７．７点

③家庭での勉強時間は３０分未満だが，モバイルを全く使用しない生徒の平均点　５７．６点

（結論）モバイルを長時間使用する生徒は，勉強をしていてもその効果が発揮し勉強をあまりしていない生徒よりも成績がとれない。

モバイル使用時間　多
学習時間　少
B 群　A 群
C 群　D 群
学習時間　多
モバイル使用時間　少

なぜこのようなことが起こるのか。最新の研究で、「脳疲労」や「オーバーフロー脳」「デジタル認知障害」が引き起こされるためであることが明らかになってきました。以下ＮＨＫで放送された「クローズアップ　現代＋」の内容を紹介します。

脳疲労、オーバーフロー脳

生活に欠かせないスマホが脳科学の世界で物議を醸している。スマホに依存すると 30 ～ 50 代の働き盛りでも、もの忘れが激しくなり判断力や意欲も低下するという。患者の脳では前頭葉の血流が減少。スマホから文字や映像などの膨大な情報が絶えず流入し続け、情報処理が追いつかなくなると見られている。「スマホによる脳過労」「オーバーフロー脳」などと呼ぶ脳神経外科医も現れ、脳の異常は一時的なのか、認知症の初期症状なのか、議論が始まっている。また東北大学は、スマホの使用時間が長い子どもの大脳に発達の遅れが見られると発表。一部自治体は子どものスマホ規制に動き出した。。

スマホによる"脳過労"　正常なとき

最近、スマホの使いすぎが原因で、脳に異常をきたす人が増えているという指摘が、医師や研究者の間で相次いでいる。スマホによる「認知機能の低下」、「脳過労」とも呼ばれており、以前は高齢の患者がほとんどだったが、５年ほど前から異変が起きており、脳神経外科の奥村歩医師は、「３０代から５０代の働き盛りの患者さんが、全体の４割を占めるに至っている。まずは５分でもいいから、スマホを触らない、ぼんやりする時間を作ってください。と述べている。

3

- 1 -

スマホ通信「スマホ考」は、生徒と保護者に向け、スマホ使用の影の部分について、最新の話題などを掲載し、適切な利用について考えてもらうことを目的に発行しています。

デジタルシチズンシップ教育は、スマホを賢く使用して、これからの情報化社会を豊かに生きるためのスキルを身に付けさせることを目的としています。昨年度は、県外大学教員による、危険なサイトの見抜き方や、情報の真偽判定のノウハウについてオンライン授業を実施しました。

学校全体で、一人一台端末を学力向上に利活用

【家庭】ホームプロジェクト発表

・全員にわかりやすい画面で紹介できる
・情報を共有できる
・写真等の加工が容易
・スプレッドシートを用いて調理実習の計画を立

【体育】ダンス練習で活用

・インターネットを使って、創作の材料を調べる
・ラジカセに代わり、音源として活用する
・映像を撮り、練習での修正に活用する
　→実技全般で技術向上を目指して映像の撮影
・授業の感想・課題の提出

【理科】GoogleClassroomを用いた提出物の回収・採点・返却

・教室のどこでも誰もが画面上で板書を確認できる
・解説や説明が記録されるため、授業時は教師の発言に耳を傾け、家庭で復習ができる

端末を使った国際交流

【生物】掲示版Miroを活用

【国語】考査前の復習と自己評価

・授業内容の復習をスライド資料で
　（漢詩の詩の形式、押韻、対句、詩の内容）
・自己評価においてGoogle Formsを活用
・自分のペースで学習して模範解答を確認
　→効果的な復習ができる。
・自己評価で自己肯定感の向上につながった

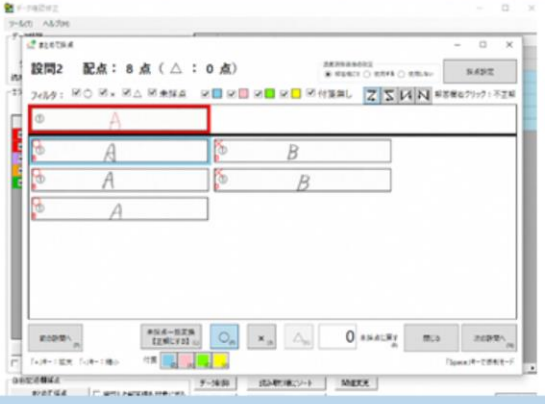
「個別最適な学び」と
「協働的な学び」の
一体的な充実

5

学校全体で端末を様々な教科の授業で利用するとともに、家庭においても、学習や連絡など、文具としても活用しています。学校では、端末を利用した個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて、研究企画兼情報管理部を中心に取り組みを進めています。

校務のＩＣＴ化

常設スタジオの設置



自動採点システムの導入

カラー複合機の導入

連絡事項の情報化

収集DATAの利活用

6

最後に、校務のICT化について御説明します。自動採点システムの導入、連絡事項の情報化などに取り組みました。それら収集したデータから、生徒一人ひとりのカルテを作成し、学習指導、生活指導、三者面談等に生かしています。校務の情報化で得られたデータや時間を、生徒のために活用出来るよう、更なる取り組みを進めていきます。